

「思考スキル」は、問題に取り組むことを通じて、みなさんに身につけてほしい力をあらわしたものです。思考スキルは、特定の問題に限らず、さまざまな場面で活用することができる大切な力です。問題につまずいたときには、思考スキルに着目してみましょう。どのような切り口で問題と向き合えばよいのか、どのように考え進めればよいのか…など、手がかりをとらえるのに役立ちます。問題に取り組むとき、活用してみましょう。

思考スキル

○情報^{じょうほう}を獲得^{かくとく}する

- ・問題文から情報^{じょうほう}や問題^{しやうけん}の条件^{じょうけん}を正しくとらえる
- ・図やグラフなどから情報を正しくとらえる

○再現^{さいげん}する

- ・計算^{けいさん}を正しく行う
- ・問題^しの指示^し通りの操作^{そうさ}を正しく行う

○調べる

- ・方針^{ほうしん}を立て、考えられる場合^{ちやうふく}をまれや重複^{さか}なく全て探し出す
- ・書き出すことを通じて、法則^{ほうそく}を発見^{はつみん}する

○順序^{じゆんじやうだ}立てて筋道^{すじみち}をとらえる

- ・変化^{へんか}する状況^{じやうきやう}を時系列^{じけいれつ}で明らかにする
- ・複雑^{ふくざつ}な状況を要素^{ようそ}ごとに順序^{じゆんじやうだ}立てて整理^{せいり}する
- ・前問^{ぜんもん}が後に続く問^{つづ}いの手がかりとなっていることを見ぬく

○特徴^{とくちやうてき}的な部分^{ぶぶん}に注目^{ちゆもく}する

- ・等しい部分^{とくちやうてき}に注目^{ちゆもく}する
- ・変化^{へんか}しないものに注目^{ちゆもく}する
- ・際立^{きわだ}った部分^{ぶぶん}（計算^{けいさん}式^{しき}の数^{すう}、素数^{そすう}、約数^{やくすう}、平方数^{へいふうすう}、…など）に注目^{ちゆもく}する
- ・和^さ、差^さや倍数^{ばいすう}関係^{かんけい}に注目^{ちゆもく}する
- ・対称^{たいしやうせい}性に注目^{ちゆもく}する
- ・規則^{きそく}や周期^{しゅうき}に注目^{ちゆもく}する

○一般^{いつぱん}化する

- ・具体的^{ぐたいてき}な事例^{じれい}から、他の状況^{じたい}にもあてはまるような式^{しき}を導^{みちび}き出す
- ・具体的^{ぐたいてき}な事例^{じれい}から、規則^{きそく}やきまりをとらえて活用^{かつやく}する

○視点^{してん}を変える

- ・図形^{ずけい}を別の視点^{してん}で見る
- ・立体^{てい}を平面的^{てい}にとらえる
- ・多角^{たかく}的な視点^{してん}で対象^{たいしやう}をとらえる

○特定^{じやうきやう}の状況^{じたい}を仮定^{かてい}する

- ・「極端^{きょくたん}な場合^{ばあひ}を想定^{さうてい}して考える（もし全て○なら、もし○○がなければ、…など）
- ・不足^{ふそく}を補^{おぎな}ったり、余分^{よぶん}を切りはなしたりして全体^{しんたい}をとらえる
- ・複数^{ふくすう}のものが移動^{いどう}するとき、特定^{とくてい}のものだけを移動^{いどう}させて状況^{じたい}をとらえる
- ・具体的^{ぐたいてき}な数をあてはめて考える
- ・解答^{かいとう}の範囲^{はんい}や大きさの見当^{けんたう}をつける

思考スキル

○知識^{ちしき}

- ・ 情報を手がかりとして、持っている知識^{ちしき}を想起する
- ・ 想起した知識を正しく運用する

○理由^{りゆう}

- ・ 筆者の意見や判断の根拠^{こんきよ}を示す
- ・ ある出来事の原因^{げんいん}、結果^{けっか}となることを示す
- ・ 現象^{げんしょう}の背後^{はいご}にあることを明らかにする

○置き換え^か

- ・ 問いを別^{べつ}の形で言い表す
- ・ 問題^{じょうきよう}の状況を図表などに表す
- ・ 未知^{みち}のものを自分が知っている形で表す
- ・ 具体的な数と比^ひを自由に行き来する

○比較^{ひかく}

- ・ 多角的な視点^{してん}で複数のことがらを比べる
- ・ 複数のことがらの共通点^{きょうつうてん}を見つけ出す
- ・ 複数のことがらの差異^{さいい}を明確^{めいかく}にする

○分類^{ぶんるい}

- ・ 個々の要素によって、特定のまとまりに分ける
- ・ 共通点^{きょうつうてん}、相違点^{そういてん}に着目して、情報を切り分けていく

○具体・抽象^{ちゅうしやう}

- ・ 文章から筆者の挙げる例^{れい}、特定の状況^{しんじょう}や心情を取り出す
- ・ ある特徴^{とくちよう}を持つものを示す
- ・ 個々の事例から具体的な要素^{ようそ}を除いて形式化する
- ・ 個々の事例から共通する要素を取り出してまとめる

○関係づけ

- ・ 情報どうしを結び付ける
- ・ 要素間の意味^{みぎ}を捉え^{とら}え、情報^{おぎな}を補う
- ・ 部分と全体のそれぞれが互^{たが}いに与えあう影響^{えいきやう}に目を向ける
- ・ ある目的^{しゆだん}のための手段^{しゆだん}となることを見つけ出す

○推論^{すいろん}

- ・ 情報をもとに、論理的な帰結^{ろんりてき}を導き出す
- ・ 情報をもとに、未来^{みらい}・過去^{かこ}のことを予測^{よそく}する
- ・ 情報を活用して、さらに別の情報を引き出す

小学4年 基礎力テスト（国・算）—— 解答と解説

算数（国語と算数あわせて40分）

1

(1)	999	(2)	214	(3)	416		
21		22		23			
(4)	12	(5)	9.8	(6)	2.4	(7)	$\frac{4}{5}$
24		25		26		27	

2

(1)	9	箱、あまり	2	こ	(2)	1200	円		
28				29					
(3)	ア	④	イ	③	ウ	①	(4)	45	分間
30		31		32		33			
(5)	①	1	km	700	m	②	300	m	
34				35					

3

(1)	20	(2)	20	(3)	2500	円
36		37		38		

4

(1)	12	(2)	ア	2	イ	8
39		40		41		

(3)	ア	2	イ	4
42		43		

国語

（国語と算数あわせて四十分）

問九	恩		問一	①	
	返			足	
	し	55		②	44
				交番	45
				③	
				手首	46
				④	
				申	47

問四	ウ	50	問二	イ	48
問五	エ	51	問三	納豆	49
問六	イ	52			
問七	ウ	53			
問八	ア	54			

（配点）

算数

- ① 各2点×7=14点
 ② 各2点×8=16点
 ③ (1)(2)各3点×2=6点 (3)4点
 ④ 各2点×5=10点

国語

- 問一 各3点×4=12点
 問二、問四 各4点×2=8点
 他 各5点×6=30点
 計100点

【解 説】

② いろいろな文章題

(1) A1 再現する

$38 \div 4 = 9$ あまり 2 より、9 (箱) あまり 2 (こ)

(2) A1 再現する

$20 \div 5 = 4$ より、みかん 20 こは 4 ふくろにあたります。 $300 \times 4 = \underline{1200}$ (円)

$300 \div 5 = 60$ より、みかん 20 こは $60 \times 20 = 1200$ (円) と求めることもできます。

(3) A1 知識

円の半径はどれも等しい長さなので、アは二等辺三角形 (④) イは直角をもつので、直角三角形 (③)
半径の長さは $10 \div 2 = 5$ (cm) なので、三辺の長さが等しいウは正三角形 (①)

(4) A1 再現する

(午前 10 時 25 分) - (午前 9 時 30 分) = 55 分

往復にかかった時間：5 × 2 = 10 (分)

$55 - 10 = \underline{45}$ (分間)

(5) ① A1 情報を獲得する 知識

$1450 + 250 = 1700$ (m) $1000\text{m} = 1\text{km}$ なので、1 km と 700m

② A1 情報を獲得する

$800 + 950 = 1750$ (m) $1750 - 1450 = \underline{300}$ (m)

3 表とグラフ

- (1) **A1** 情報を獲得する 再現する

グラフの1めもりは100円より、5円玉の合計金額は100円なので、

$$\text{ア} : 100 \div 5 = \underline{20} \text{ (まい)}$$

- (2) **A2** 情報を獲得する 再現する

500円玉のまい数は、 $1000 \div 500 = 2$ (まい)

$$\text{イ} : 10\text{円玉のまい数} = 2 \times 10 = \underline{20} \text{ (まい)}$$

- (3) **A2** 情報を獲得する 再現する

5円玉の合計金がかく： グラフのたてじくの1めもりより、100 (円)

10円玉の合計金がかく： $10 \times 20 = 200$ (円)

100円玉の合計金がかく： $100 \times 4 = 400$ (円)

50円玉の合計金がかく： 100円玉の合計金がかくの2倍なので、 $400 \times 2 = 800$ (円)

500円玉の合計金がかく： 1000 (円)

$$\text{すべての合計金がかく} : 100 + 200 + 800 + 400 + 1000 = \underline{2500} \text{ (円)}$$

4 まほうじん 魔方陣

- (1) **A2** 情報を獲得する 再現する

$$4 \times 3 \times \boxed{6} = \boxed{6} \times \text{イ} \quad \text{より、イ} = 4 \times 3 = \underline{12}$$

- (2) **B1** 情報を獲得する 再現する

どのれつも、3つの数字をかけた答えは、 $4 \times 12 \times 3 = 144$ ですが、

$$18 \times \text{ア} \times \boxed{4} = \boxed{4} \times 12 \times 3 \quad 18 \times \text{ア} = 12 \times 3 = 36 \quad \text{ア} = 36 \div 18 = \underline{2}$$

$$4 \times 12 \times \boxed{3} = \boxed{3} \times 6 \times \text{イ} \quad 4 \times 12 = 6 \times \text{イ} = 48 \quad \text{イ} = 48 \div 6 = \underline{8}$$

- (3) **B2** 情報を獲得する 再現する

どのれつも、3つの数字をかけた答えは、

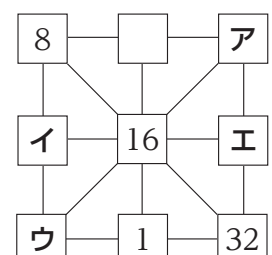
$$8 \times 16 \times 32 = 4096 \quad \text{ですが、}$$

右の図のようにウとエをりょうすると、

$$\text{ア} \times 16 \times \boxed{\text{ウ}} = \boxed{\text{ウ}} \times 1 \times 32 \quad \text{ア} = 32 \div 16 = \underline{2}$$

$$\text{イ} \times 16 \times \boxed{\text{エ}} = 2 \times \boxed{\text{エ}} \times 32 \quad \text{イ} = 64 \div 16 = \underline{4}$$

図3



【解説】

菊池寛『納豆合戦』松田哲夫編「小学生までに読んでおきたい文学⑤」もだちの話」所収（あすなる書房）から出題しました。登場人物たちの表情や行動から気持ちを読みとりましょう。

問一 A2 知識

三年生までの漢字を問う問題です。とめやはねまで、ていねいに書きましよう。

問二 B1 関係づけ

——線①の直前に、「お婆さんばあさんも、家へ帰って売上げ高を、勘定かんじょうしてみると、お金が足りないので、私達わたしたちに騙だまされるのに、気がついた…お巡査さわりさんに、言いつけた」とあります。ですから、答えはイです。ア「一銭分いっせんぶんずれる」エ「吉公きちこうが…そそのかして」の部分ぶぶんが不適切ふてきせつです。ウ「食べ物たべものを粗末そまつにして遊あそんでいる」ことをお婆さんが知っているとは書かれていません。

問三 B1 関係づけ

吉公きちこうがお婆さんばあさんから買う「鉄砲丸てつぱうだま」とは、納豆のことです。苞つつはワラで作られた包むもののことです。

問四 B1 推論

一銭で「二銭の苞だま」を騙だまし取っているにもかかわらず、お巡査さわりさんに詰め寄よられると「一銭のです」とウソまでつくのですから、ここでの「太い」は「ずうずうしい」「図太い」という意味です。

問五 B1 理由

——線③の直前に、「餓鬼大将がきだいしやうの吉公きちこうだといって、お巡査さわりさんに逢あっちゃ堪たりません。蒼あおくなつて、ブルブル顫ふるえながら…泣き声なみこゑで言いいました」とあります。「怖い声こゝろこゑ」のお巡査さわりさんに声を掛けられ、こわくて激はげしく動揺どうごうしている

ことがわかります。そのうえ、交番に連れていかれそうになったのですから、これからどうなるのかとこわさのあまり泣いてしまったのでしょう。ですから、ア「悪気がなかったことをアピール」「見逃みのがしてもらおうと考え」、ウ「深く反省」「謝あやまりたい」といった具体的なことは考える余裕よゆうはないはずです。また、イ「友達ともだちが…まきこまれただけだ」というようにふるまう」ウ「はげしい怒りいかを目の当たり」なども本文の内容とあいません。

問六 B1 推論

——線④の直後に「私達も…悪いことをしているのですから…ブルブル顫ふるえていました」とあります。自分たちも捕とらまるのではと恐れているときに、こちらを「恐こい眼めで、睨にら」んでくるお巡査さわりさんから名前を言うように言われたのですから、もうだめだ、逮捕たつとくされると思い泣いてしまったのでしょう。ア「そののかされただけ」「納得なつとくいかない」というのは本文の内容とあいません。ウ・エ吉公きちこうをどう思うかということよりも、自分たちもつかまってしまう、ということことで頭がいっぱいなのです。

問七 B1 理由

——線⑥の直前に、お婆さんばあさんが「私達が、一緒に泣き出す声を聞くと、急に盲目めくらの眼めを、ショボショボさせ…お巡査さわりさんをなだめました」とあります。子どもがおいおい泣いているのを聞いて、いてもたってもいられず、子どもたちをかばっています。子どもたちがかわいそうでそのままにはしておけなかったのでしょう。あんなひどいことをされても、子どもがかわいそうだと自分のされたことを許ゆるせるお婆さんばあさんの優しき、慈悲じひ深さが読み取れます。ア「自分たちのしたことを…反省し…許しをこう」、イ「怒りにまかせて…逮捕たつとくさせようとした」、エ「自分がお巡査さわりさんに責められている」の部分が本文の内容とあいません。

問八 B1 推論

「恥はかしさ」「後悔こうかい」などの言葉から、自分のおろかな行為こうゐを恥はずかしく思い、なんということをしたのだと自分を責めている「私」の気持ちを読みとりま

しょう。イ「だれかに知られたらどうしよう」というような自分を守るような
ずるい気持ちは読み取れません。ウここはお婆さんに対する気持ちです。エ「私」
のおろかさは「人を見かけで判断していた」ことではありません。

問九

B1 理由 関係づけ

——線⑧の「毎朝、お婆さんから納豆を買う」ということは「私」にとって
はどのような意味があるのかを読みとりましょう。——線⑦の三行後に「私
は、納豆なっとう売のお婆さんに、恩返しおんがえのため何かしてやらねばならないと思いま
した」とあります。その「恩返し」が毎朝お婆さんから納豆を買うという行為な
のです。この毎朝の「恩返し」には、許ゆるされないほどのひどいことをしてしまっ
たことへのつぐないの気持ちがあったと考えられます。